

会 議 録

会 議 名		令和6年度 第2回三郷市かわまちづくり協議会
開 催 日 時		令和7年1月17日（金） 14時00分～15時30分
開 催 場 所		三郷市役所 本庁舎7階 大会議室
出席者	委 員	赤坂（会長）、豊田（副会長）、大久保、石原、堀之内、日出間、斉藤、神谷、中村
	関係機関	国土交通省 関東地方整備局 江戸川河川事務所 流域治水課 松本課長、工藤専門官
	関係課 （三郷市）	商工観光課 中村課長、吉田課長補佐、宮本主事
	事務局 （三郷市）	企画政策課 伊藤課長、斉藤補佐、宮田主任、渡邊主事
次第	1 協議・報告事項等 1-1 委員の委嘱について 1-2 会長・副会長の選出について 1-3 実証実験結果の報告について 1-4 今後について 2 質疑応答 3 その他	
資料	資料1 三郷市かわまちづくり協議会 委員一覧 資料2 三郷市かわまちづくり協議会設置要綱 資料3 実証実験結果の報告について 資料4 今後について	

(議事要旨)

1. 協議・報告事項

1-1 委員の委嘱について

○令和6年7月に多くの委員の任期満了。再任、退任、新規委嘱となった委員について、企画政策課から説明。(資料1)

1-2 会長・副会長の選出について

○三郷市かわまちづくり協議会設置要綱(資料2)第5条により、会長および副会長を互選。会長に赤坂委員、副会長に豊田委員が選出された。

- ・ 豊田委員から赤坂委員を会長に推薦。全員異議なし。
- ・ 赤坂委員から豊田委員を副会長に推薦。全員異議なし。

1-3 実証実験結果の報告について

○商工観光課から実証実験結果について説明。(資料3)

【実証実験結果概要】

- ・ キャンプ、キッチンカー、ドローン利用のニーズを把握できた。
- ・ 自由利用との不和や悪天候による長期閉鎖など諸課題を確認できた。
- ・ 会場への進入路やトイレなど、必要な整備を洗い出せた。
- ・ 採算性は低かったが、諸課題が解決されれば官民で河川敷を利活用できる可能性を見いだせた。

1-4 今後について

○商工観光課から今後について説明。(資料4)

- ・ 諸課題の解決に向けてじっくり議論していく。
- ・ 日常利用との共存や商店会との相乗効果を見込めるコンテンツを検討していく。
- ・ 水面利用などの実証実験で把握しきれなかったニーズについて、ワークショップを活用して検討していく。
- ・ 今回の実証実験終了に伴い、事業検討部会を解散する。

2. 質疑応答

【概要・結果】

○主に「利用者の声」「今後の協議会」について質疑応答。

○今後は協議会を定期開催する。

以上概要・結果

【質疑応答詳細】

○キャンプ場とキッチンカーの収支について

- ▶ 資料2ではキャンプ場とキッチンカーの経費が個別に分からない。キッチンカーでキャンプ用品を販売していたということか？（神谷）
- ⇒ キッチンカーは飲食販売のみで、キャンプ用品の販売はキャンプ場の物販で行っている。今回の資料上ではキッチンカーの飲食物仕入れとキャンプ用品の仕入れを合算して記載している。（堀之内）

○利用者の声について

- ▶ 実証実験コンテンツ利用者の具体的な不満の声はどのようなものがあったか？（日出間）
- ⇒ 武蔵野線が通るときの騒音、トイレが遠いなど、現場の工夫だけでは解決困難なものが多かった。（商工観光課）
- ⇒ 料金についての声は？（日出間）
- ⇒ 高いという声も多かったが、民間事業者による運営で、採算度外視とはいかない。各種経費がかかり、出水期には河川敷内運動公園と同様に閉鎖することなどを考慮すると、公営キャンプ場よりは高くなってしまう。（商工観光課）
- ⇒ 利用者の満足度は概ね高かったようだが、三郷駅周辺江戸川河川敷に特有の魅力があったらより良いと思う。現状はそれが無いように感じた。（日出間）
- ⇒ 今回の実証実験では、遠方の大自然に囲まれた本格的なキャンプとは異なり、気軽に行ける近くのキャンプ場ということでライトな利用が多かったという認識。近くでキャンプできることが利用者にとって良い魅力となっていたと考えられる。（商工観光課）

○駐車場について

- ▶ 駐車場を求める声が多かったとのことだが、実証実験用の駐車場が設けられていたはず。どういった理由で声があがっているのか、見解を聞きたい。（神谷）
- ⇒ 車を乗り入れられる区画もあったが、そうではない区画の利用者は駐車場から利用区画まで歩く必要がある。また、駐車場の草刈りを十分にできていなかったため、このような声に繋がったと考えられる。（堀之内）

○ 今後の協議会について

- ▶ 今回は実証実験結果の報告のみとのことだが、今後、課題の解決に向けて話し合っていく場などはどのように考えているか？（堀之内）
- ⇒ 今後の活動として考えているのはワークショップ。室内で話し合うことだけではなく、実際に河川敷に行って色々検討してみるということを考えている。（商工観光課）
- ⇒ ワークショップは商工観光課が進めていくのか？ また、どれくらいの期間や規模感を想定しているのか？（堀之内）
- ⇒ 商工観光課が進めていく。期間としては1～2年程度を想定しており、協議会の内外に関わ

らず河川敷に興味がある人に声をかけていく。(商工観光課)

- ⇒ かわまちづくり制度の申請については、そういったワークショップを1～2年やった後の検討になるのか？(堀之内)
- ⇒ ワークショップ等を経て、今後の協議がかわまちづくり制度を申請する方向に進んだ場合、そのようになる。(企画政策課)
- ⇒ 今回の実証実験で、当協議会の活動が市民にある程度認知されたので、今後、ワークショップ以外にも今回の実証実験のようなことを並行して進めてはどうか。(神谷)
- ⇒ 堀之内委員や石原委員と相談しつつ検討する。(商工観光課)
- ⇒ 今回出た諸課題をクリアした状態で改めて実証実験としてコンテンツを展開したいという気持ちはある。(石原)
- ⇒ 今後、ワークショップや実証実験への関わり方について、相談させてもらいたい。(商工観光課)
- ⇒ 他にもワークショップと並行して議論できることがあれば進めるべきだと思う。(堀之内)
- ⇒ 当協議会を定期開催としてはどうか。これまでは議題を整理した資料を用意でき次第開催となっていたかと思うが、資料がまとまらなくても顔を合わせて議論することはできると思う。(神谷)
- ⇒ 定期開催の日程を調整し、改めて連絡する。(企画政策課)

【その他意見】

○事前広報について

今回は準備期間があまりとれなかったので仕方がないが、今後実証実験などを実施する場合は、2～3か月間程度は事前に広報する期間があった方がよいと思う。(豊田)

○実証実験コンテンツ運営を経て得た気づきについて(堀之内)

- ・ 3月頃は土手の広範囲に菜の花が咲くため、河川敷への訪問者がかなり多くなる。
- ・ 堤防天端のサイクリングロードにはサイクリストの休憩場所が少ない。みさとの風ひろばは重宝されている。
- ・ 2月頃、カメラを持った人が河川敷に集まっていた。ミミズクが見られるらしい。
- ・ 身近で管理のされた火が使える場所としてのニーズを多く感じた。

3. その他

特になし。

以上